

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.85



ネット環境の危険性をもっと知ろう

NIIT情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

オーストラリアでは子どものSNS利用が全面的に禁止になった。他でも別の理由ではあるがTikTokが使えない国が多くある。日本では愛知県の豊明市で1日のスマホ使用時間を2時間以内を目安とする条例が可決されている。

この規制の目的がなかなか伝わっていないのか否定的な意見も耳にする。SNSには元から使用推奨年齢の決まりがある。しかし、知らずに使用している家庭があまりにも多い。

まず、一番の問題は成長途中の子どもたちは依存してしまふこと。脳の成長の妨げになることを防ぐ目的がある。SNSの使用で思いもしないトラブルに巻き込まれてしまふ。しかし、トラブルに遭うまでは危機感を持っていない。

昨年の小学生のトラブル相談を見てみると①夏から始めた対戦型ゲーム（15歳以上）に5年生がはまり、お風呂にも入らず昼夜逆転の生活、端末を取り上げると身の危険を感じるくらい暴れる②投げ銭にはまり、多くの配信者に合計数百万円ほど親の金を配る③裸の写真をネットに上げる。SNSの相手に送る

（女兒側から）④ゲームやアプリを改造して、運営側に被害を与え、損害賠償請求を受ける⑤PayPayコードを配信で公開し、振り込みを要求する——小学生とは思えぬトラブルが多く、特に小3の低学年で目立つた。

普通の暮らしでは、受けることのないトラブルを被害側も加害側も抱えてしまふ。なぜ、このような状況になるまで保護者は気づかないのか。運営側には18歳未満の使用に関しては、すべてのアプリが親の同意や管理を求めている。全て親の責任として対応しているのだから、運営側の責任ではないということになる。

親の意識はどうだろう。講座に参加される保護者からは、年々変わる環境に危機感を覚え、アップデートのために毎年参加される方も多いのだが、なかなか多くの保護者には伝わっていない。トラブルの怖さを理解するためにアナログ的な怖さで表現すると、「親子で街を歩いているときに、目の前で子どもが客引きに声をかけられ連れ去られる」「深夜の繁華街に子どもだけで出かけ、大人に取り囲まれている」と同じなのだと思うしてほしい。

声掛け事案の対策として、グルーミング罪

も設けられている。16歳以下の子どもに対する声掛けを取り締まる法律だが、16歳どころか小学生への声掛けが非常に目立つ。原因の一つにチャットが浸透してしまった結果だと思う。親は子どものチャットに気づいていないのかも知れないが、LINEは年齢確認の設定をしないと、オープンチャットが18歳以下は使えなくなる。今は小学生がスマホを手に入れるとLINEを使う。ニンテンドースイッチでチャットを経験した児童は抵抗なくLINEでもチャットに参加し、同じ趣味の仲間と会話を楽しんでいる。ユーザー同士では年齢も気にせず、より敷居の低い環境で会話をしている。

ニンテンドー新型Switch2は先の年末年始で多くの販売が見込まれていた。プレゼンにも最適なのだと思うが、Switch2は12名とゲーム中にチャットができる。子どもしかいない環境ならまだいいが、そこは街中の繁華街と一緒だ。いろいろな人達と気軽に話せてゲームができる環境が本当に児童に必要なのだろうか。

ニンテンドー見守りSwitchというアプリで管理ができるのだが、ネットでアプリ名を検索すると、制限を解除する項目の方が検索ランキングが高い。子どもたちは自分で調べて解除しているのに、なかには制限するアプリの存在すら知らない保護者もいる。

もう一度言つが、街中でわが子が客引きに声掛けされたり、成人向けのお店のチラシを渡されたりしているのと同じ環境なのだ。子どもの健全な心身の成長のために、危険性を知らない小学生にはいけない対策はあると思うのだが。